

毒性病理学基礎講座

生活環境に存在する、あるいは私たちが作り出すあらゆる化学物質は身体に負の影響（毒作用）を及ぼします。毒性病理学は、起こり得るそのようなリスクを形態学的手法により探究し、その情報を社会に提供することで、安全・安心で豊かな地球の営みを構築することに貢献しています。医薬品や農薬の開発に必須である毒性病理学の学術的な背景や意義、そして肝臓、腎臓さらに神経系組織などの主要臓器に生じる重要な毒性変化について解説します。初心者向け毒性病理学講座です。



第1回 1月14日(土)

毒性病理学入門

「病とは？ 病の成り立ちとは？」—病理学の概念を説明するとともに、歴史的背景に基づいた毒性病理学の学術的意義や、化学物質に起因する細胞傷害の基本的メカニズムについて解説します。

第2回 1月21日(土)

肝臓の毒性病理（その1）

化学物質の多くが肝臓で代謝されることから、肝臓は毒性変化が最も生じやすい臓器です。肝臓の基本的な機能と組織に加え、化学物質に起因する肝細胞の変性・壊死・肥大とその意義について解説します。

第3回 1月28日(土)

肝臓の毒性病理（その2）

肝臓にはマクロファージ系の細胞であるクッパー細胞が存在します。マクロファージ機能を起点とした化学物質の肝毒性の発現機序、そして発癌物質の影響を受けやすい肝臓の増殖性病変（変異肝細胞巣や腫瘍）の組織学的特性について解説します。

第4回 2月4日(土)

腎臓の毒性病理

腎臓の主要な機能は糸球体での濾過と尿細管からの再吸収です。そのために、尿から排泄される化学物質は腎臓に毒作用を示すことがあります。腎臓の基本的な機能と組織に加え、化学物質に起因する糸球体構成細胞の変化と尿細管の変性・壊死、そしてその意義について解説します。

第5回 2月11日(土)

神経系組織の毒性病理

化学物質の神経系組織への影響は、高次機能にダメージを与えることから重篤な毒作用と捉えられています。中枢と末梢の神経系組織を構成する細胞の基本的な特徴に加え、化学物質に起因する神経細胞や髄鞘の毒性変化とその意義について解説します。

第6回 2月18日(土)

心筋、肺、副腎などの毒性病理

化学物質は様々な臓器や組織に影響を与えます。心筋、肺、副腎などの諸臓器における化学物質に起因する重要と思われる変性・壊死などの毒性変化とその意義について解説します。

2023年 新型コロナウイルス感染拡大の状況により、本講座は変更・中止となる可能性があります。

1月14日(土)～2月18日(土) 10:30-12:00 各土曜日・全6回

- 会場：大阪公立大学 I-site なんば（大阪市浪速区敷津東2-1-41 南海なんば第1ビル 2階）
- 定員：20名（申込者多数の場合は抽選） ■ 受講料：10,000円（全6回分）
- 申込方法：本学Webサイト「申込フォーム」または右記二次元コードからお申し込みください
※受講の可否は開催日の5日前までに通知します。届かない場合は必ずお問合せください。
- 問合せ先：大阪公立大学 社会連携課 Tel 072-254-9942 Fax 072-254-6271

講師：山手 文至

大阪府立大学 名誉教授・獣医師
日本毒性病理学会 名誉会員

申込フォーム▼

申込締切
12月25日(日)

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University



大阪公立大学Webサイト▶

大阪公立大学公開講座

検索

※お申込みの際の個人情報は、申込後の事務連絡、統計資料等の作成および本学公開講座等のご案内に使用いたします。利用目的以外の使用については、一切いたしません。

安心・安全のため
皆様へのお願い

マスクの着用



入場時の検温



入退室時の消毒

安心・安全のため
私たちの対策

施設内の消毒



定期的な換気



定員数の削減